

会

報

社団法人 日本病理学会
 〒113-0033
 東京都文京区本郷2-40-9
 ニュー赤門ビル4F
 TEL: 03-5684-6886
 FAX: 03-5684-6936
 E-mail jsp-admin@umin.ac.jp
 http://jsp.umin.ac.jp/

社団法人日本病理学会

第234号

平成19年(2007年)7月刊

1. 第55回(平成21年度)秋期学術集會会長ならびに第99回(平成22年度)学術集會会長の募集について(公募のお知らせ)

社団法人日本病理学会は、第55回(平成21年度)秋期学術集會会長ならびに第99回(平成22年度)学術集會会長を以下のとおり募集いたします。

学術評議員各位

平成19年7月
 社団法人日本病理学会
 理事長 長村 義之

日本病理学会秋期学術集會(秋期特別總會)の会長ならびに学術集會(春期總會)の会長は、定款施行細則の定めるところにより、いずれも理事会が選考し、總會において決定しています。

ここに、第55回(平成21年度)秋期学術集會会長ならびに第99回(平成22年度)学術集會会長を、下記の要領により募集いたします。なお来年度より、学術集會への補助金が増額されることになっています。

記

1. 応募は自薦であること。
2. 応募者は、第55回秋期特別總會会長の場合は平成21年11月1日に、また、第99回春期總會会長の場合は平成22年4月1日にそれぞれ満65歳以下の日本病理学会学術評議員であること。
3. 第55回(平成21年度)秋期特別總會会長の応募は、関東地区からの限定とすること。
4. 応募者は、日本病理学会学術集會改革案(平成18年5月1日決定 会報221号平成18年6月掲載)の主旨を踏まえて、所定の用紙に学術集會に対する考え方、学術集會の具体的な実行計画、日本病理学会及び関連学会において近年に行った主要な学術活動等を記載すること。
5. 応募の締切りは、平成19年9月30日(消印有効)までとすること。

なお、所定用紙の交付または本件についての質問がありましたら、本学会事務局までお問い合わせください。

2. 第98回(平成21年度)日本病理学会總會における宿題報告担当候補者の推薦について

平成19年3月の日本病理学会總會にて、第98回日本病理学会以降の宿題報告担当者については、自薦に加えて学術評議員からの推薦を受けることとなりました。つきましては、宿題報告担当候補者の推薦を下記の要領でお願いいたします。学術評議員から推薦された候補者については、学術委員長名で推薦されている旨をご本人にお伝えし、応募されることをお勧めいたします。

推薦方法：日本病理学会ホームページよりダウンロードした所定の書式に、被推薦者名、演題名(仮題)、簡単な推薦理由、推薦者名、などを記載のこと。

提出先：東京都文京区本郷2-40-9
 ニュー赤門ビル4F
 社団法人日本病理学会事務局

推薦締め切り：平成19年8月20日

本件につきましてご質問がありましたら、日本病理学会事務局または学術委員長までお問い合わせください。

日本病理学会事務局：

TEL 03-5684-6886 FAX 03-5684-6936

学術委員長(岡田保典)：

TEL 03-5363-3763 FAX 03-3353-3290

3. 第98回(平成21年度)日本病理学会總會における宿題報告の募集について(公募のお知らせ)

第98回(平成21年度)日本病理学会における宿題報告を下記の要領により、募集いたします。

記

1. 応募資格：日本病理学会学術評議員
2. 募集人員：3名。ただし、学術委員会による選考の結果、宿題報告担当者として適当と判断された応募者数が上記人員に達しない場

合、第98回日本病理学会総会における宿題報告を3題未満とすることがある。

3. 提出書類:

- ・日本病理学会ホームページよりダウンロードした所定の書式に、応募者名、演題名、選考用抄録(1,000字以内)などを記載のこと。ダウンロードできない場合は、日本病理学会事務局まで請求のこと。
- ・講演内容に直接関係のある自著論文50編以内の一覧
- ・代表的な自著論文10編以内の別刷

4. 提出先: 〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-9 ニュー赤門ビル4F

社団法人日本病理学会事務局
「宿題報告応募抄録」と明記し、書留郵便で送ること。

5. 締め切り: 平成19年9月30日(消印有効)

なお、第98回日本病理学会における宿題報告担当者は、平成19年10月の学術委員会において厳正・公明に選考し、同年12月の理事会審議にて決定いたします。本件につきましてご質問がありましたら、日本病理学会事務局または学術委員長までお問い合わせください。

日本病理学会事務局:

TEL 03-5684-6886 FAX 03-5684-6936

学術委員長(岡田保典):

TEL 03-5363-3763 FAX 03-3353-3290

4. 第9回(平成19年度)日本病理学会会員海外派遣事業について(公募のお知らせ)

日本病理学会では、会員に広く海外の動向を伝えていくことも極めて重要なことと考え、病理学に関する海外の研究、教育、診療および施設・設備全般の事情を視察し、わが国の病理学の発展に役立てるため、実績のある会員を海外に派遣する事業を行っています。

国際交流委員会では、本年度の本事業に基づく派遣会員を下記の要領により募集いたします。

記

1. 応募資格: 日本病理学会学術評議員
2. 派遣期間: 原則として出国期間が平成19年度後半から平成20年度前半の間で1週間程度(海外の病理学会への参加期間を含んでもよい。ただし、海外参加支援事業への重複応募は不可)
3. 派遣人員: 2~3名
4. 派遣経費: 1名30万円
5. 締め切り: 平成19年9月30日(消印有効)

派遣候補者の選考は国際交流委員会で行い、理事会審議にて決定します。

応募用紙は日本病理学会事務局までご請求ください。本件につきましてご質問がありましたら、日本病理学会事務局または国際交流委員長までお問い合わせください。

日本病理学会事務局:

TEL 03-5684-6886 FAX 03-5684-6936

国際交流委員長(笹野公伸):

TEL 022-717-7450 FAX 022-273-5976

5. 第8回(平成20年度)海外病理医・病理研究者招聘事業について(公募のお知らせ)

日本病理学会では、実績のある海外病理医・病理研究者が、日本病理学会総会ならびに各種セミナーにおいて講演等を行うため来日する際の援助を行っています。

国際交流委員会では、本年度の本事業に基づく海外病理医・病理研究者招聘の企画を下記の要領で募集いたします。

記

1. 招聘対象者: 海外病理医・病理研究者
 2. 招聘期間: 平成20年4月1日から平成21年3月31日
 3. 招聘人員: 2~3名
 4. 助成額: 1名20~30万円(日本病理学会総会時は1名20万円、これ以外では1名30万円)
 5. 締め切り: 平成19年9月30日(消印有効)
- 候補企画の選考は国際交流委員会で行い、理事会審議にて決定します。

応募用紙は日本病理学会事務局までご請求ください。本件につきましてご質問がありましたら、日本病理学会事務局または国際交流委員長までお問い合わせください。

日本病理学会事務局:

TEL 03-5684-6886 FAX 03-5684-6936

国際交流委員長(笹野公伸):

TEL 022-717-7450 FAX 022-273-5976

6. 第7回(平成19年度)海外病理学会参加支援事業について(公募のお知らせ)

日本病理学会では、本学会の若手会員が、国際的視野を養い病理学研究に貢献できるように、海外の病理学会に参加し、研究発表を奨励するための助成を行っています。

国際交流委員会では、本年度の本事業に基づく海外病理学会への参加会員を下記の要領にて募集いたします。

記

1. 応募資格：40歳未満（応募時）の日本病理学会会員（日本病理学会学術評議員の推薦を受けた者）
2. 対象学会：International Academy of Pathology (IAP), American Society for Investigative Pathology (ASIP), European Society of Pathology (ESP), World Association of Societies of Pathology (WASP) など
3. 募集人員：10名
4. 助成額：1名10万円
5. 締め切り：随時
6. 決定の時期：前期 平成19年秋期特別総会（平成19年9月末までの応募分）
後期 平成20年春期総会（平成20年3月末までの応募分）

候補者の選考は国際交流委員会で行い、理事会審議にて決定します。演題の採択が未定の場合、本支援事業への採否は保留となります。演題採択後に採択通知を事務局あて提出してください。演題採択通知を受理することによって本支援事業への採択が確定いたします。

応募用紙は日本病理学会事務局までご請求ください。本件につきましてご質問がありましたら、日本病理学会事務局または国際交流委員長までお問い合わせください。

日本病理学会事務局：

TEL 03-5684-6886 FAX 03-5684-6936

国際交流委員長（笹野公伸）：

TEL 022-717-7450 FAX 022-273-5976

7. 技術講習会—分子病理学の基礎技術—7の受講者の募集について

—分子標的の病理評価技術の現状と進歩— 受講者募集

分子生命科学のめざましい進歩とその応用により、癌細胞や癌組織の特性を標的にした多くの分子標的治療薬が出現し、実際一部の癌では目覚ましい治療効果を挙げてきています。これから出現すると思われる分子標的薬を用いた治療にあたり、病理診断により治療対象の癌患者の選択をするようになると考えられます。したがって、病理医は病理診断により癌の存在診断を適切にすることはもちろんのこと、癌細胞や癌組織の有する分子標的を免疫組織化学染色、FISH法などの手法を用いて適切に評価することが強く望まれています。加えて、培養細胞を用いた検討では決して明らかにならない、実際の癌組織における新しい治療標的分子を明らかにすることは、様々な癌組織に接している病

理医こそがなしえる重要な研究方向と考えられます。また、これらの研究を行うにあたり、臨床統計学の知識もますます必要となってくると考えられます。

第7回日本病理学会病理技術講習会においては分子標的の病理学的評価に関して臨床的な視点、評価のための病理技術面からそして統計学的立場からこれからの病理医に必要とされる技術ならびに情報について演題をいただき、先生方と新しい病理診断の方向性を考えて行きたいと思います。

下記の要領で参加者を募集いたしますので、会員諸氏にはふるってご応募されますようにご案内いたします。

記

1. 日時：2007年12月5日（水）
第53回日本病理学会秋期特別総会前日
13:00-17:20
2. 場所：タワーホール船堀（第53回秋期特別総会会場）
3. 演題と演者
 - (1) 「分子標的の病理学的評価に関する概説」
落合 淳志（国立がんセンター）
 - (2) 「分子標的治療薬の臨床応用の現状と今後の方向性」
佐伯 俊昭（埼玉医科大学国際医療センター）
 - (3) 「病理研究に役立つ臨床統計学」
吉村 健一（国立がんセンター）
 - (4) 「分子標的治療に関連した免疫組織化学解析技術の現状と進歩」
畑中 豊（ダコ・ジャパン・メディカルサイエンス部）
 - (5) 「組織検体を用いたFISH技術と評価の現状と進歩」
長谷川 匡（札幌医科大学）
 - (6) 「高集積TMA技術を用いた病理研究の展望」
福岡 順也（富山大学）

プログラムの詳細につきましては、日本病理学会ホームページ（<http://jsp.umin.ac.jp>）をご参照ください。

4. モデレーター：落合淳志（国立がんセンター東病院臨床開発センター臨床腫瘍病理部）
5. 講義担当者：5名
6. 募集人員：120名
7. 受講料：5,000円（ハンドアウト代含む）
8. 応募、問い合わせ、参加決定：
 - (1) 受講希望者は、受講を希望すると旨とともに、氏名、所属、会員・非会員の区別、連絡先（住所、電話番号、FAX番号、E-mail address等）を記

載の上、以下の応募先までお申し込みください。
 応募先：社団法人日本病理学会事務局
 TEL：03-5684-6886 FAX：03-5684-6936
 E-mail：jsp-admin@umin.ac.jp
 内容の問い合わせ先：落合淳志(国立がんセンター
 東病院臨床開発センター臨床腫瘍病理部)
 TEL：04-7134-6855 FAX：04-7134-6865
 E-mail：aochiai@east.ncc.go.jp

- (2) 学会員は先着順に参加決定いたします。非会員は11月1日時点での空き分について参加を受け入れられます。

8. 「乳幼児突然死症候群 (SIDS) の診断の手引き」について (情報提供)

標記のことにつき、厚生労働省より事務連絡がありましたのでお知らせいたします。厚生労働省の下記ホームページにガイドラインが公表されておりますのでをご参照ください。

<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2005/04/h0418-1.html>

9. 会員の訃報

妹尾左知丸 名誉会員 (平成19年6月22日ご逝去)

10. 常任理事会報告 (平成19年4月～6月)

◎第1回 (平成19年4月23日 (月))

- 「診療行為に関連した死亡の死因究明等のあり方に関する課題と検討の方向性」についての厚生労働省のパブリックコメント募集に対し、意見を提出した(病理学会ホームページに掲載)。これに関連して、第3回死因究明制度等に関する検討会(6月8日)には深山副理事長がヒアリングの参考人として出席する。
- モデル事業運営委員会内に、1.の死因究明制度等に関する検討会と整合性をもたせるためのワーキンググループが設置されるとのことで、深山副理事長が委員として加わることになった。
- 内保連へ診療報酬改定要望事項の提出をおこなった。稲山社会保険小委員会委員長より、今後の活動方針について報告があった。ワンデイパソロジーについて検討を始めているとのことである。
- 2014に向けてICD11を策定中であるがこれに病理学会からも委員を出せるよう要望するべきであるとの意見が出された。
- 英国病理学会との交流については、日英で交互にシンポジウムを開催すること、同時に若手会員を派遣することなどが話し合われている。

- ホームページ運営アシスタントの選定について、広報委員会より資料が提出され、委員会より推薦のあった「香取ゆき氏」に5月から依頼することとした。
- 選挙管理委員会委員として明石 巧, 伴 慎一, 森茂郎, 長尾俊孝, 佐々木毅の5名の学術評議員を推薦し内諾を取ることにした。
- IHE-J 関連学会連絡会議(4月14日)に谷山清己 剖検・病理技術小委員会委員長が出席し、その報告があった。
- 3月15日に開催の「若手医師確保のための小委員会」の報告があった。7月のレジナビフェア参加に関連してパンフレットの作成をおこなう準備をしているとのことである。
- 3月13日開催のプログラム委員会の報告があった。病理学会や関連研究会等がおこなっているセミナー等のリストを作成する(専門医更新のクレジットを与えている会など)。平成20年度の春の学術集會時の病理診断講習会のスケジュール案が病理診断講習会委員会清水道生委員長より提案され、これを了承した。今後は病理診断講習会委員会の委員構成についても検討する必要があるとの意見が出された。春の病理診断講習会とIAPセミナーとの整合性等、今後の検討課題である。
- 宿題報告は今年から他薦も可とすることから応募のフォームを改訂し、7月会報に掲載するよう検討を始める。病理学会カンファレンスは5回(平成20年)までは開催し、その後の開催は検討課題である。

◎第2回 (平成19年5月22日 (火))

- 5月21日に開催された医道審議会医道分科会診療科名標榜部会を、長村理事長と水口診断体制専門医委員会委員長が傍聴した。長村理事長よりその際の配付資料が示され、傍聴の報告があった。主に総合科についての審議であったが、一部委員から「病理は診療科か?」との疑問も出されたので、それについては委員に説明に行く等の対応が検討された。
- 5月11日に開催された第2回診療行為に関係した死亡に係わる死因究明等の在り方に関する検討会を大菌事務局長が傍聴した。その際の配付資料が示され、傍聴の報告があった。今回の検討会では、病理医の数は資料として紹介されたが、具体的に病理に関連した審議はなかった。6月8日に開催される第3回標記委員会には病理学会のヒアリングがあり、深山副理事長が出席する。その際の資料案を検討した。
- 病理学会ホームページに支部会、セミナーの一覧を掲載することについてはプログラム推進委員会の要

望もあり、病理学会や関連研究会等がおこなっているセミナー等の一覧(予定も含めて)を事務局が作成することとした。

4. 第1回の選挙管理委員会を6月6日に開催することとした。
5. 羽場礼次精度管理小委員会委員長より、CAP(精度管理)を試しての感想があった。病理学会としては推薦程度にとどめ、希望者は直接接触してもらうのがよいのではないかとのことであった。これについては、検討を継続することとした。
6. 病理学会100周年記念事業については、運営委員会を立ち上げるための準備会を7月17日(火)に開催することとした。
7. 若手医師確保に関する小委員会から、7月15日に開催される医学生のためのレジナビフェアにむけて、パンフレットを作成中であり、その案が提案された。実際の作成にむけて、さらに検討中とのことである。
8. 来年度(2008年度)のサマーフェストは8月23・24日開催することになっており、専門医試験は7月26・27日であることから、病理学会カンファレンスはこれらの日程を避けて開催していただくよう、世話人の梅澤先生に申し入れることとした。
9. 宿題報告候補者公募は今回から他薦も可としたことから、そのやり方について検討した。まず他薦期間を設け(推薦は事務局あて)、推薦された候補者については、学術委員長名で応募を勧めることにし、その後は、自薦と同様の書式での応募となる。
10. 社会保険小委員会では、ワンデイパソロジーについてアンケートを実施中である。
11. 日本がんと治療認定医機構より、連携・協力および関連学会連絡委員会への参加の有無について問い合わせがあったので、いずれも有りと回答した。また、認定制度の適用申請については申請しないと回答した。
12. 日本専門認定機構について
本年度負担金599,150円を支出することとした。

◎第3回(平成19年6月25日(月))

1. 医道審議会診療科名標榜部会傍聴について
6月11日に開催された第2回医道審議会診療科名標榜部会を、長村理事長と水口診断体制専門医委員会委員長が傍聴し、長村理事長より報告があった。今回の部会では、現行の標榜科から外れる科からの意見などが主な議題であり、病理に関しての意見は出されなかった。部会は継続審議ということで、今後の動向をみていくこととする。
2. 第13部に「病理診断料」を新設することについては、内保連委員長(齋藤壽一社会保険中央病院委員長)と

長村理事長他が面談し、また、要望書も提出した。

3. がん対策推進基本が閣議決定されたことにより、都道府県においてがん対策推進計画が検討されることになった。その際の厚労省からのガイドラインに、病理診断および細細胞診の重要性を明記してもらうよう要望することとした(臨床細胞学会との連携)。
4. 第3回死因究明等の在り方に関する検討委員会に深山副理事長が参考人として出席し、その報告があった。モデル事業の現況報告が主な内容であった。21年度でモデル事業は終了することである。
5. 羽場礼次精度管理小委員会委員長より、College of American Pathologists(CAP)精度管理を試しての報告書提出があった。病理学会としては、病理専門医更新のクレジットを与えるなどの対応を検討するが、導入については、個別対応としてもらうこととする。今後コルビー氏との対応は、黒田理事が窓口となることとした。
6. 日本産科婦人科学会より「日母分類改定のためのワーキンググループ(案)」病理学会委員について推薦の依頼がきている。同学会より名前の挙がっている、坂本穆彦理事および森谷卓也学術評議員を推薦することとした。
7. 6月6日に第1回選挙管理委員会が開催され、森茂郎委員が互選の上委員長となった。役員選挙については、6月20日付で公示済みである。
8. 学術会議シンポジウムとして「病理学・法医学からの医療進歩への貢献」とのテーマで市民公開講座を企画しているが、時宜にあったテーマとして「診療関連死を考える」と変更して企画してはどうかとの意見が出された。法医側の担当者へ提案することとした。
9. 教育ワークショップについてはプログラムの中に、医学教育関係者の基調講演をお願いしてはどうかとの案が出され、堤教育委員長に検討を依頼することとした。
10. 筑波大学の野口教授が運営している「つくばヒト組織診断センター」について資料を閲覧した。新しい試みとして、今後の成果をみていくこととした。
11. 病理学会100周年記念事業については7月17日(火)に準備委員会を開催する。そこで実行委員会のメンバーとして委員長と副委員長数名を提案することとする。
12. 7月15日(日)東京ビッグサイトにて開催される医学生のためのレジナビフェア参加について準備状況を確認した。パンフレットの作成は順調に進んでいるとのことである。
13. 8月11日(土)12日(日)開催のサマーフェストには150名以上の参加希望があり、最終的には200名

を超えることが予想される。

14. 宿題報告の公募については今回から自薦のみでなく推薦も受け付けることにしたことから、会報等に掲載する公募文書を学術委員会で検討した。また、推薦用のフォームを岡田学術委員会委員長が作成した。会報7月号で公募することとした。
15. 学術集會会長公募については、秋期特別総会の「世話人」が「会長」と呼称変更したことから、応募用紙を改訂した。それ以外は、例年通りの公募手順である。会報7月号で公募することとした。

お知らせ

1. 医療の質・安全学会第2回学術集會について

日 時：平成19年11月23日（金 祝）～25日（日）
 会 場：東京国際フォーラム
 参加申し込み：平成19年7月1日～9月30日（事前登録）
 ホームページ：<http://qsh.jp/2007/>

2. 2007年度朝日賞候補者の推薦について

申込み締切り：2007年8月31日
 連絡先：朝日新聞社事業本部メセナ・スポーツ部「朝日賞」事務局
 〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
 TEL：03-5540-7453 FAX：03-3541-8999

3. 平成19年度上原賞（研究業績褒賞）受賞候補者の推薦について

申込み締切り：平成19年9月10日
 連絡先：（財）上原記念生命科学財団
 〒171-0033 東京都豊島区高田3-26-3
 TEL：03-3985-3500 FAX：03-3982-5613
 E-mail：uehara-f@jade.dti.ne.jp

4. 平成19年度（第29回）沖縄研究奨励賞推薦応募について

申込み締切り：平成19年9月30日
 連絡先：（財）沖縄協会「沖縄研究奨励賞」
 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-6-15 7F
 TEL：03-3580-0641 FAX：03-3597-5854
 E-mail：okinawakyoukai@nifty.com

5. 2008年度女性科学者に明るい未来をの会「猿橋賞」受賞候補者の推薦について

申込み締切り：2007年11月30日
 連絡先：女性科学者に明るい未来の会
 〒168-0071 東京都杉並区高井戸西3-6-26
 古在由秀方
 E-mail：saruhashi2006@saruhashi.net